

メルとの思い出

一年 深澤唯斗

メルは、おばあちゃんの家で飼っていた犬です。犬種はビーグルです。ぼくが生まれたときからいたので先輩です。

メルとの思い出は2つあります。1つ目は、一緒にお散歩したことです。散歩に行きたくなるとメルは吠えます。でも外に出ると歩きません。なのでいつも物でつって進みます。だけどそんなメルがかわいいです。ぼくが小さいころは兄妹3人とおばあちゃんの家にいるいとこ2人でリードの取り合いをしたそうです。なので一時期リードが2本になっていたそうです。おばあちゃんの家に行ってみなでわいわい散歩したのが1つ目の思い出です。

2つ目は、餌をあげることです。餌がほしいときもメルは吠えます。吠え始めるとまた兄妹といこでだれがあげるか競走になります。「さて」と「おて」を何回もさせられてなかなか餌を食べられないメルがかわいそうだけれどとてもかわいかったです。でもぼくはよろこんでいるようにも見えました。

そんなメルはぼくが小学5年生のときに死んでしまいました。その1年前から散歩の足取りが重くなったり餌を食べる量が減ったりして少しずつおばあちゃんになっっていると感じました。でもぼくた

ちが行くとしつぽをたくさんふっついて元気でもう大丈夫だと思っていました。

メルが死んだのは17さいでした。普通中型犬は長くて15年くらいの寿命だそうです。なのでメルはとても長生きでした。犬の17さいは人間でいう84さいだそうです。メルは幸せだったかな？ぼくたちうるさくなかったかな？と思うけど絶対幸せだったと思います。メルの大好きなおじいちゃんおばあちゃん、ぼくたち、いろんな人にかわいがられて愛されて絶対幸せだったと願っています。

ぼくとお兄ちゃんは家でよく犬を飼いたいと言います。でもメルが死んだときたくさんさんの人がいっぱい泣きました。犬は人間よりも寿命が短いので、メルのとくと同じ思いはしたくないとお母さんはいいいます。ぼくは確かにそう思いました。飼うとなると、病院につれていったり餌やお散歩、トイレなどお世話をしなければなりません。かわいいという理由で簡単に飼ってはいけないと思いました。ぼくは責任や命の大切さ、犬の事についてしっかり考えてお兄ちゃんと話し合いお母さんをせつとくしたいです。もし本当に犬が飼えたらメルのとくのようにみんなであくさん思い出をつくりたいです。